

学生の確保の見通し等を記載した書類（目次）

1. 新設組織の概要	2
(1) 新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）	
(2) 新設組織の特色	
2. 人材需要の社会的な動向等	3
(1) 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	
(2) 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	
(3) 新設組織の主な学生募集地域	
(4) 既設組織の定員充足の状況	
3. 学生確保の見通し	8
(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	
① 既設組織における取組とその目標	
② 新設組織における取組とその目標	
③ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	
(2) 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	
① 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	
② 競合校の入学志願動向等	
③ 学生納付金等の金額設定	
(3) 学生確保に関するアンケート調査	
(4) 人材需要に関するアンケート調査等	
4. 新設組織の定員設定の理由	14

1. 新設組織の概要

(1) 新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	3 年次 編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
豊橋技術科学大学 工学部学際共創課程	80 名	360 名	1,040 名	愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1 番 1

図表 1-1 新設組織の概要

(2) 新設組織の特色

豊橋技術科学大学（以下「本学」という。）は、「技術を支える科学の探究によって新たな技術を開発する学問、技術科学の教育・研究を使命とします。この使命のもと、主に高等専門学校卒業生及び高等学校卒業生等を入学者として受入れ、大学院に重点を置き、実践的、創造的かつ指導的技術者・研究者を育成するとともに、次代を切り拓く技術科学の研究を行います。さらに、社会的多様性を尊重し、地域社会との連携を強化します。これらを通じて、世界に開かれたトップクラスの工科系大学を目指します。」を基本理念としている。

今回の組織再編においては、工学部の教育目標を「豊かな人間性と社会性、グローバルな感性と倫理観を備え、学際的な基礎専門知識と実践的技能を活用し、社会との対話を通じて、課題を解決する創造的能力を発揮して、地域社会・国際社会の持続的発展に貢献できる高度専門人材の養成を目指します。」と設定し、基礎から応用へと段階的に深化させる「らせん型教育」を更に発展させ、学生の主体性を尊重しつつ指導教員等と相談のうえ、主分野・他分野を学際的に学修できるカリキュラム制度に変更し、多様な将来像を描ける人材を養成することとしている。

さらに、高等専門学校との接続教育、産学官及び地域との連携、バイリンガル授業等によるグローバル教育の充実を通じ、社会的要請に応える教育組織であることが特色である。授与する学位は学士（工学）であり、卒業生の 80%以上が大学院博士前期課程に進学するため、大学院の教育研究との接続性を重視した学部・大学院を一貫とする高度専門教育を本学の開学から展開している。

特に、本学における半導体工学分野の研究は、充実し先進的であり国際的にも評価が高く、設計から試作・製造・評価までを網羅する LSI 工場において、学生は半導体デバイスや集積回路の開発工程を一貫して体験・習得することが可能となっている。2024（令和 6）年 6 月には、「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」に採択され、2025（令和 7）年度から情報工学分野とともに半導体工学を担っている電気・電子工学分野と合わせて大学院の入学定員が 27 名増員されている。定員増は大学院博士前期課程のみであるが、高度情報専門人材の育成のため、今回の学部 1 課程・大学院 1 専攻への移行により、学部における半導体工学、情報工学関連等の分野科目履修者の増加にも繋げることとしている。

2. 人材需要の社会的な動向等

（1）新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

新型コロナウイルス感染症に代表される感染症対策、資源と関連したエネルギー関連の技術開発、半導体関連の技術開発など、複雑かつ予測困難な社会課題を、従来のような単一の専門知識・能力だけでは解決することが難しい状況となっており、今後、急速に変化する産業構造、社会構造にも柔軟に対応できる技術者・研究者が求められている。単に情報及び半導体分野だけでなく、専門分野に加えて他分野を横断的に理解し、高度な専門性と応用力を兼ね備えた人材を育成できる教育体制の整備が求められている。このため、主専門分野の知識・能力とともにデジタル関連技術だけでなく、さらに他の複数の専門分野の横断的な知識・能力を有し、社会情勢の変化にも対応ができる高度専門人材が必要とされている。

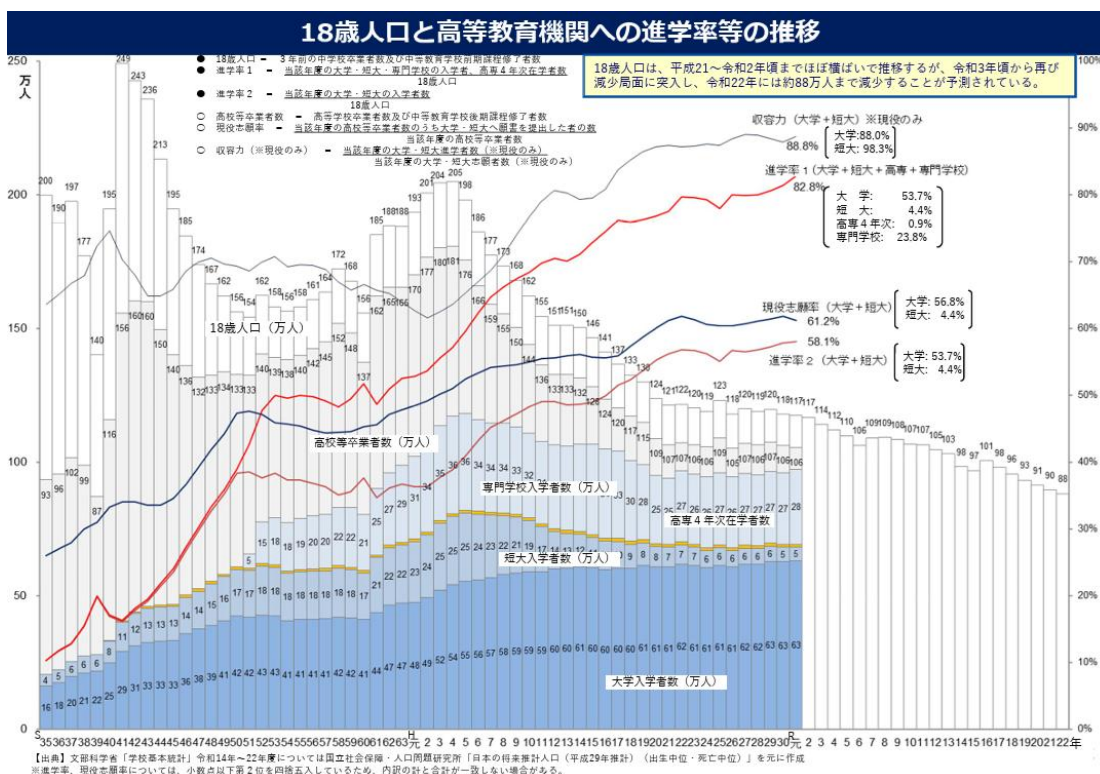
愛知県の主要産業は自動車産業を中心とした製造業が極めて盛んで、愛知県は製造品出荷額等が45年連続で日本一を誇るモノづくり王国であり、自動車、航空宇宙、ロボットなど幅広い工業製品が集積している。特に自動車関連をはじめとする輸送用機械が県内産業の約5割を占めている。これらの産業には、学際的な工学知識や技術が必要であり、このような素養のある高度情報専門人材の供給が愛知県の産業を支える上で不可欠である。

情報及び半導体人材育成という観点からも、「あいちデジタル人材育成支援アクションプラン」に示されているように愛知県におけるデジタル人材が不足しており、この問題に対する対応が愛知県副知事からも強く本学へ要請がある。また、電子情報技術産業協会（JEITA）では、中部地方において今後約10年で6,000人の半導体人材が不足すると試算し、本学から卒業・修了生が期待されている。

このように、全国的な人材需要の高まりと、地域産業の特性を踏まえると、再編後の新しい課程の設置は、全国的、地域的、社会的な動向と合致したものである。産業界や社会の人材養成に応えるとともに、地域の課題解決に寄与することができるものと考えられる。

（2）中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

文部科学省及び内閣府資料「18歳人口と高等教育機関への進学率の推移」（図表2-1）によると、18歳人口は2023（令和5）年から2027（令和9）年頃までほぼ横ばいで推移し、2028（令和10）年以降緩やかに減少すると予想されている。



図表 2-1 18 歳人口と高等教育機関への進学率の推移 ¹

一方で、本学が所在する愛知県においては、人口減少の度合いは緩やかであり、高等学校卒業生の進学率も全国平均を上回っている（図表 2-2）。

また、本学の特色である 3 年次編入学の対象となる高専本科卒業生の進学率は緩やかではあるが上昇傾向にある（図表 2-3）とともに、本学への入学者数は全国トップ（図表 2-4）であることから、将来、国内の 18 歳人口が減少する局面にあっても本学の志願者数、入学者数が著しく減少する可能性は低いと考えられる。

単位：人

年 度		2019	2020	2021	2022	2023	平均
事 項		(R01)	(R02)	(R03)	(R04)	(R05)	
全 国	卒 業 者 数	1,037,284	1,012,007	990,230	962,009	918,850	984,076
	大学進学者数	578,341	580,550	588,919	584,465	568,729	580,201
	大学進学率	55.8%	57.4%	59.5%	60.8%	61.9%	59.0%
愛知県	卒 業 者 数	63,287	62,134	60,818	59,717	56,956	60,582
	大学進学者数	37,368	37,186	37,597	37,512	36,457	37,224
	大学進学率	59.0%	59.8%	61.8%	62.8%	64.0%	61.5%

図表 2-2 高等学校卒業生の進学率

（文部科学省学校基本調査 卒業後の状況調査票（高等学校 全日制・定時制）² より作成）

¹ https://www.mext.go.jp/content/20240531-mxt_chousa01-000036236-22.pdf

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kihon5/1kai/siryoe-2-7.pdf>

² https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/002/002b/koumoku.html

単位：人

事 項 \ 年 度		2019 (R01)	2020 (R02)	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)	平均
全 国	卒 業 者 数	9,769	9,710	9,943	9,859	9,883	9,833
	大学進学者数	3,690	3,725	3,962	3,914	3,908	3,840
	大学進学率	37.8%	38.4%	39.8%	39.7%	39.5%	39.0%

図表 2-3 高専本科卒業生の進学率
(文部科学省学校基本調査 卒業後の状況調査票 (高等専門学校) ³ より作成)



図表 2-4 国立高専卒業生の大学編入学状況
(独立行政法人高等専門学校機構概要 2025 ⁴ より)

(3) 新設組織の主な学生募集地域

学部1年生の主な学生募集地域としては、愛知県と静岡県西部を中心に、岐阜県、三重県など、東海地方を広域に対象とする。特に、豊橋市を中心とした東三河地域には高等学校が多数存在し、進学希望者も一定数見込まれる。また、名古屋市からのアクセスも良好であり、都市部からの通学希望者も想定している。加えて、静岡県浜松市など隣接県の都市部からも通学圏内であることから、広域的な募集が可能と判断される。

また、学部3年生の主な学生募集地域は、全国の高等専門学校を対象とする広域的な募集を想定し

³ https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/002/002b/koumoku.html

⁴ <https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/07/kosengaiyo2025.pdf#page=19>

ている。国立高等専門学校は、全国に 51 校 55 キャンパスあり、本学の学生の約 8 割が高等専門学校出身者であることから、各高専において大学編入を希望する学生は一定数いることは、これまでの入学実績から確認できる。加えて、本学の教育の専門性や教育内容が高専専門学校の教育と親和性が高いことから、全国的な募集が可能と判断される。

（４）既設組織の定員充足の状況

既存組織の定員充足状況は「図表 2-5 各選抜方法の状況」の通りである。

直近 5 か年の 1 年次入学志願者合計数は、平均 185.5 名で入学定員を大きく上回っている。入学者合計数も平均 87.0 名と定員を上回っている。総合型選抜の一環として実施していた私費外国人留学生選抜の募集定員を 10 名と設定していたが、2021（令和 3）年度は入学者合計が 77 名に留まり、新型コロナウイルス感染症の影響等により入学辞退者が多く発生したため入学定員を下回っている。2024（令和 6）年度入試より私費外国人留学生選抜の募集人員を若干名に変更したため、入学辞退者も減少しており、入学定員 80 名を上回る学生が確保されている。

また、直近 5 か年の 3 年次編入学志願者合計数は平均 958.6 名、入学者合計数は平均 390.4 名とそれぞれ入学定員を大きく上回っている。下表の内訳として、既存の 5 課程毎の過去 5 年間の選抜状況は「第 1 年次入学者選抜状況（資料 1）」及び「第 3 年次入学者選抜状況（資料 2）」のとおりである。

学年	入試区分	項目	2021 (R03)	2022 (R04)	2023 (R05)	2024 (R06)	2025 (R07)	平均
1 年 次 入 学	一般選抜 (一括募集： 前期日程)	募集人員	45	45	45	45	45	－
		志願者数 (志願倍率)	145 (3.22)	119 (2.64)	204 (4.53)	86 (1.91)	115 (2.55)	133.8 (2.97)
		受験者数	134	112	188	82	103	123.8
		合格者数	52	53	56	50	50	52.2
		入学者数 (定員充足率)	48 (1.06)	48 (1.06)	53 (1.17)	49 (1.08)	49 (1.08)	49.4 (1.09)
	学校推薦型選抜 (一括募集： 普通科等)	募集人員	5	5	5	15	15	－
		志願者数 (志願倍率)	26 (5.2)	28 (5.6)	32 (6.4)	40 (2.66)	34 (2.26)	32.0 (4.42)
		受験者数	26	28	32	39	34	31.8
		合格者数	8	7	8	18	15	11.2
		入学者数 (定員充足率)	8 (1.6)	7 (1.4)	8 (1.6)	18 (1.2)	15 (1.0)	11.2 (1.36)
	学校推薦型選抜 (工業科)	募集人員	15	15	15	20	20	－
		志願者数 (志願倍率)	31 (2.06)	48 (3.2)	51 (3.4)	48 (2.4)	38 (1.9)	43.2 (2.59)
		受験者数	31	48	50	48	38	43.0
		合格者数	17	18	17	21	20	18.6

		入学者数 (定員充足率)	17 (1.13)	18 (1.2)	17 (1.2)	21 (1.05)	20 (1.0)	18.6 (1.11)
	総合型選抜 (一括募集： 私費外国人留学生 選抜含む) 【2024(R06)入試 から廃止】	募集人員	15	15	15			-
		志願者数 (志願倍率)	22 (1.46)	23 (1.53)	15 (1.0)			20.0 (1.33)
		受験者数	14	21	14			16.3
		合格者数	8	13	9			10.0
		入学者数 (定員充足率)	4 (0.26)	7 (0.46)	6 (0.4)			5.7 (0.37)
	私費外国人留学生 選抜 (一括募集) 【2024(R06)入試 から実施】	募集人員				0	0	-
		志願者数				4	6	5.0
		受験者数				3	4	3.5
		合格者数				2	1	1.5
		入学者数				1	1	1.0
	合 計	募集人員	80	80	80	80	80	-
		志願者数 (志願倍率)	224 (2.8)	218 (2.72)	302 (3.77)	178 (2.22)	193 (2.41)	185.5 (2.78)
		受験者数	205	209	284	172	179	175.5
		合格者数	85	91	90	91	86	88.5
		入学者数 (定員充足率)	77 (0.96)	80 (1.0)	84 (1.05)	89 (1.11)	85 (1.06)	87.0 (1.03)
3 年 次 編 入 学	推薦入試	募集人員	179	179	179	179	179	-
		志願者数 (志願倍率)	292 (1.63)	350 (1.95)	396 (2.21)	379 (2.11)	402 (2.24)	363.8 (2.02)
		受験者数	292	350	396	379	402	363.8
		合格者数	238	286	306	312	305	289.4
		入学者数 (定員充足率)	236 (1.31)	285 (1.59)	302 (1.68)	312 (1.74)	303 (1.69)	287.6 (1.60)
	学力入試	募集人員	181	181	181	181	181	-
		志願者数 (志願倍率)	494 (2.72)	656 (3.62)	580 (3.20)	520 (2.87)	510 (2.81)	552.0 (3.04)
		受験者数	446	508	441	413	373	436.2
		合格者数	240	203	172	204	176	199.0
		入学者数 (定員充足率)	102 (0.56)	88 (0.48)	70 (0.38)	100 (0.55)	98 (0.54)	91.6 (0.50)
	外国人留学生入試	募集人員	0	0	0	0	0	-
		志願者数	38	36	34	39	47	38.8
		受験者数	31	28	29	32	37	31.4

		合格者数	17	15	15	15	20	16.4
		入学者数	9	6	7	7	11	8.0
	その他の特別入試	募集人員	0	0	0	0	0	－
		志願者数	4	6	3	5	2	4.0
		受験者数	4	6	3	5	2	4.0
		合格者数	3	4	2	5	2	3.2
		入学者数	3	4	2	5	2	3.2
	合 計	募集人員	360	360	360	360	360	－
		志願者数	828	1,048	1,013	943	961	958.6
		(志願倍率)	(2.3)	(2.91)	(2.81)	(2.61)	(2.66)	(2.65)
		受験者数	773	892	869	829	814	835.4
		合格者数	498	508	495	536	503	508.0
		入学者数	350	383	381	424	414	390.4
		(定員充足率)	(0.97)	(1.06)	(1.05)	(1.17)	(1.15)	(1.08)

図表 2-5 工学部 各選抜方法の状況

3. 学生確保の見通し

(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

① 既設組織における取組とその目標

本学における学部学生確保に向けた具体的取組は次のとおりである。

● パンフレット等を用いた広報

「大学案内」、「学生に聞いた研究室ガイドブック」を作成し、愛知県内並びに本学出願実績のある高校や全高専に配布するとともにホームページに公開している。パンフレットでは、本学進学の特長（教育研究、豊富な学生支援、優れた就職実績など）や具体的な就職先、先輩からのメッセージを紹介し、本学進学に向けた意識向上を図っている。

● 大学見学

高校生や高専生については進路を考える一助として、一般の方には本学の教育・研究活動に実際に触れていただく機会として大学見学を受け付け、「大学案内」や「ホームページ」では分からない本学の雰囲気を直接体験する機会を提供し、本学への進学を勧めている。

● オープンキャンパス

オープンキャンパスにおいて、愛知県内外の高校生や高専生を中心にオープンキャンパスにて、本学の特徴や強みを直接、知る機会を提供している。2025（令和7）年度において、同伴者を含め約1,900名の多くの参加があった。

● 進学説明会

主に高校生を対象とした各地で開催される「進学説明会」に参加し、入試担当教職員が主体となり、大学概要の説明、個別相談、資料配布などを実施している。2024（令和6）年度は、愛知県、静岡県を中心に9会場の進学説明会に参加し、延べ135人に個別相談を行った。

- 大学紹介動画

合計 3 本の大学紹介動画で各課程、学内施設や実務訓練などの本学の特色について紹介している。本学が設立されるまでの歴史から、開学当時の様子や福利棟、学生宿舎等の生活環境についても紹介し、本学に来ることのできない高専生、高校生にも本学を知る機会を提供している。

- 高校生対象の実験・実習講座

技術科学への興味、関心の向上のため、愛知県三河地区、静岡県西部地区の高校生を対象とした実験・実習講座を夏期休業期間中に実施している。2025（令和 7）年度は 12 講座、定員 55 名の各分野の講座を開催した。

- 高専生体験実習、インターンシップ

全国の高専学生に対し、本学の施設・設備及び教育研究分野の諸情報の提供を行い、高専学生の大学における 1～2 週間の体験学習（インターンシップ）の一助とすることを目的として、毎年、夏期休業期間中に体験実習を実施している。例年、本学において約 40 高専から 100 名程度が参加し、本学教員の指導のもとに熱心に研修に取り組み、研修テーマ内容のみならず、教員や学生とのふれあい・交流も実施し、本学へ進学することのきっかけとなっている。

- 高専訪問・出前授業

高専の教職員・学生に本学がより理解されるために、本学教員が高専に訪問し、大学全体、専門分野の履修内容、研究内容、学生生活等の説明及び講義（出前授業）を行い、高専からの編入学生の確保に繋げている。

- 教員研究交流集会

高専と本学の研究交流の一層の活性化を目的として、2 年に一度、建設系教員研究交流研究集会を開催している。毎回、時期にあった教育研究に関連するテーマを決めて議論することにより、本学への理解を深めてもらい、編入学生の確保に繋げている。

- 高専の所在する地域の自治体や企業への取組み紹介の強化

本学における地域は愛知県だけではなく、全国高専の所在する産業集積地域であり、高専とともに共栄することを目指している。連携強化の一環として、鹿児島、長野、鈴鹿の 3 高専に連携協定を締結した上でサテライト・オフィスを設置し、地域社会の発展に協力する取組みを行っている。また、高専教員と本学教員が連携して新しい教育・研究テーマの開拓を行うための経費支援プログラムを実施している。このプログラムには高専生の参画を推奨しており、本学研究内容の理解と本学教員との連携強化、ひいては本学への進学意欲向上にも寄与している。

② 新設組織における取組とその目標

新設組織においても基本的に同様の取組を実施する予定である。さらに、今回の改組の特徴をまとめたリーフレット（資料 3）を作成し、愛知県内並びに本学出願実績のある高校や全高専に広報する予定である。

③ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

上記①にあるように、これまでに多くの取り組みを実施しており、引き続きこれらの取り組みを継続的に実施することにより、これまでと同様に志願倍率の確保及び定員充足が十分に可能であると考えている。

（２）競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

① 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学と開設の趣旨及び開設年月日と同じ国立大学として、長岡技術科学大学を競合校として、状況分析を行う。

② 競合校の志願動向等

学部３年生の約 80%が高等専門学校本科修了した学生を受け入れている大学として、本学と開設の趣旨及び開設年月日と同じ国立大学である長岡技術科学大学を競合校として状況分析を行う。

長岡技術科学大学の特色として「学部から大学院修士課程までを一貫した教育体制としてとらえ、高度の専門的、かつ実践的・創造的な能力の開発を目指し、社会の要請にこたえられる指導的技術者を養成します。」としており、本学の教育目標と異なるものの専門性、実践的な能力を養成する方針は同様である。長岡技術科学大学も高専における教育との接続性を配慮して教育カリキュラムが設定されており、具体的な教育方法は本学と異なるもののほぼ同様の方針で教育が行われている。開学当時から多くの高専生を受け入れている。

長岡技術科学大学の１年次一般選抜前期日程入試の志願倍率は過去３年間で 1.42 倍から 1.86 倍、定員充足率は 1.04 から 1.06 である（図表 2-6）。また、３年次編入学入試の志願倍率は過去３年間で 2.17 倍から 2.66 倍、定員充足率は 1.14 倍から 1.29 倍である（図表 2-7）。このように競合校の実績からも改組による定員が充足可能であることが分かる。

項 目	2023 (R05)	2024 (R06)	2025 (R07)	平 均
募 集 人 員	50	50	50	－
志 願 者 数	93	95	71	86.3
受 験 者 数	85	90	62	79.0
合 格 者 数	56	57	54	55.7
入 学 者 数	53	53	52	52.7
志 願 倍 率	1.86	1.90	1.42	1.73
定員充足率	1.06	1.06	1.04	1.05

※長岡技術科学大学ホームページ入試情報よりデータを引用。

図表 2-6 長岡技術科学大学 1 年次一般選抜前期日程入試の状況

項 目	2023 (R05)	2024 (R06)	2025 (R07)	平 均
募 集 人 員	310	310	310	－
志 願 者 数	673	682	826	727.0
受 験 者 数	581	565	668	604.7
合 格 者 数	436	483	456	458.3
入 学 者 数	353	399	398	383.3
志 願 倍 率	2.17	2.20	2.66	2.35
定員充足率	1.14	1.29	1.28	1.24

※長岡技術科学大学ホームページ入試情報よりデータを引用。

図表 2-7 長岡技術科学大学 3 年次選抜方法の状況

③ 学生納付金等の金額設定

本学工学部における学生納付金の額は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に定める標準額と同額に設定する。

(3) 学生確保に関するアンケート調査

本学工学部の新設組織での学生確保に向けて、そのニーズを確認するためにオープンキャンパスにおいて高専生・高校生を対象としたアンケートを以下の通り行った。

(アンケートの概要)

- ・ 実施時期：2025（令和 7）年 8 月 23 日（土）
- ・ 調査対象：本学オープンキャンパス来場者のうち、高専生・高校生を対象
- ・ 実施方法：退場時にアンケート用紙を配付し、その場で記入
- ・ 回答者数：284 人（高校生 191 人、高専生 93 人）
- ・ 設問(a～c)
 - a. 本学進学に関して、自分の志望する専門分野（学科や課程など）は明確ですか。
 - b. 複数の専門分野を同時に学ぶことで、自分の将来の選択肢が広がると感じますか。
 - c. 学生自身が主体的に学修計画を設計できる教育システムに魅力を感じますか。

(アンケート結果)

- a. 本学進学に関して、自分の志望する専門分野（学科や課程など）は明確ですか。

	高校生(191)		高専生(93)		合計(284)	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
明確	55	29%	27	29%	82	29%
ある程度明確	74	39%	48	52%	122	43%
悩んでいる	49	25%	12	13%	61	21%
わからない	13	7%	6	6%	19	7%

- b. 複数の専門分野を同時に学ぶことで、自分の将来の選択肢が広がると感じますか。

	高校生(191)		高専生(93)		合計(284)	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
思う	115	60%	53	57%	168	59%
どちらかといえば思う	66	35%	34	37%	100	35%
どちらかといえば思わない	8	4%	6	6%	14	5%
思わない	2	1%	0	0%	2	1%

- c. 学生自身が主体的に学修計画を設計できる教育システムに魅力を感じますか。

	高校生(191)	高専生(93)	合計
--	----------	---------	----

	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
魅力がある	106	56%	63	68%	169	60%
どちらかといえば魅力がある	77	40%	29	31%	106	37%
どちらかといえば魅力を感じない	8	4%	1	1%	9	3%
魅力を感じない	0	0%	0	0%	0	0%

(アンケートの分析)

「a. 本学進学に関して、自分の志望する専門分野（学科や課程など）は明確ですか。」において、「明確」、「ある程度明確」と回答したのは、72%となっており、本学への進学意欲が高い状況が見て取れる。これに加え「b. 複数の専門分野を同時に学ぶことで、自分の将来の選択肢が広がると思えますか。」において、「思う」、「どちらかといえば思う」と回答したのは、94%となっており、高専生・高校生における複数の専門分野を学ぶことへのニーズは高い状況となっている。

また、本学の再編後の教育システムの特色に関する問では「c. 学生自身が主体的に学修計画を設計できる教育システムに魅力を感じますか。」において、「魅力がある」、「どちらかといえば魅力がある」と回答したのは、97%と高く、再編後の本学教育システムの特色について、高校生・高専生が魅力的に感じていることが受け取れる。

オープンキャンパスの来場者数は、新型コロナウイルス感染症の影響が軽減した2023（令和5）年度が1,137人、2024（令和6）年度が1,728人、2025（令和7）年度が1,892人であり、本学の入学定員が1年次80名、3年次編入360名であることを踏まえると、来場者のうち、保護者（例年全体の約2%）を除くことを考慮しても学生を確保することは可能であると考えられる。

(4) 人材需要に関するアンケート調査等

本学の教育組織再編に際して、これまでの本学卒業生・修了生の進路実績に基づき、産業界に対して実施したアンケート結果は以下のとおりである。

(アンケートの概要)

- ・ 実施時期：2025（令和7）年7月
- ・ 対 象：本学卒業生・修了生の進路実績に基づき産業界へ依頼
- ・ 実施方法：アンケートをWEBにて回答
- ・ 回答者数：59社
- ・ 設問(Q1～Q4)

Q1. 大学・大学院において、ひとつの専門分野の能力だけでなく、複数の専門分野の能力（分野横断的能力）を育成することは必要と思われますか。

Q2. 大学・大学院において、分野横断的な汎用的技能（ジェネリックスキル）を育成することは必要と思われますか。

Q3. 本学教育組織再編後に育成される学生について、今後の地域社会、国際社会での貢献に期待できますか。

Q4. 本学教育組織再編後に育成される学生は貴社に必要ですか。

(アンケート結果)

Q1. 大学・大学院において、ひとつの専門分野の能力だけでなく、複数の専門分野の能力（分野横断的能力）を育成することは必要と思われますか。

	回答数(59)	回答率
強く思う	15	26%
思う	33	56%
どちらかといえば思う	9	15%
思わない	2	3%

Q2. 大学・大学院において、分野横断的な汎用的技能（ジェネリックスキル）を育成することは必要と思われますか。

	回答数(59)	回答率
強く思う	37	63%
思う	21	35%
どちらかといえば思う	1	2%
思わない	0	0%

Q3. 本学教育組織再編後に育成される学生について、今後の地域社会、国際社会での貢献に期待できますか。

	回答数(59)	回答率
非常に期待できる	34	58%
期待できる	23	36%
どちらかといえば期待できる	2	3%
思わない	2	3%

Q4. 本学教育組織再編後に育成される学生は貴社に必要ですか。

	回答数(59)	回答率
大いに必要である	41	70%
必要である	15	25%
どちらかといえば必要である	3	5%
必要ではない	0	0%

(アンケートの分析)

本学の教育の特色に関しては、「Q1. 大学・大学院において、ひとつの専門分野の能力だけでなく、複数の専門分野の能力（分野横断的能力）を育成することは必要と思われますか」において、「強く思う」または「思う」と回答した割合は、82%と高く、高専生・高校生に対する同様のアンケート結果でも高い数値となっていることに加え、「Q2. 大学・大学院において、分野横断的な汎用的技能（ジェネリックスキル）を育成することは必要と思われますか。」において「強く思う」または「思う」と回答した割合は 98%となっており、いずれも複数の分野を学ぶことについて産業界にとっても魅力的なものとなっていることがうかがえることから、複数分野を受講可能な教育プログラムに需要があることが確認された。

また、地域社会、国際社会での貢献については、「Q3. 本学教育組織再編後に育成される学生について、今後の地域社会、国際社会での貢献に期待できますか。」において「非常に期待できる」または「期待できる」が 94%、「Q4. 本学教育組織再編後に育成される学生は貴社に必要ですか。」において「大いに必要がある」、「必要である」が 95%となっており、産業界側からみても本学が育成される学生について社会的必要性が高いと考えられていることがわかる。

4. 新設組織の定員設定の理由

学部の定員については、全国的・社会的なニーズ、これまでの志願者及び入学者の実績を踏まえて、適正な規模となるよう設定した。また、学部学生に対して充実した学修環境や指導の提供のために、基幹教員数等の指導体制の整備状況を考慮し、現行の入学定員である 1 年次入学者定員 80 名、3 年次入学者定員 360 名、収容定員 1,040 名を維持することとした。